



誇れる故郷を。大人たちの願い。

タシはん
アジフライかなあ?



AJIFRY × SUBCULTURE

“サブカル”から入る松浦アジフライ、正解。

松浦高校(まつナビプロジェクトのメンバー)/梶原睦月さん、中島あずささん、町田秀斗さん、北島さくらさん、平野翔梧さん、江口菜那さん、柿山慶樹さんと、井形慎治先生。

聖地ならではの“おもてなし”。私たちはその旗印に全国人気のイラストレーター・NONCHELEEE氏によるイラストワークを起用。アジフライへの入り口が“サブカル”であっても全然いい!“食べたくなる ⇨ 来たくなる(買いたくなる)”。どちらも正解なのだから。



サブカルチック!
アジフライグッズ

松浦“愛”をサブカルに! Tシャツは地元人気No.1!
●旬市場(P26)、MatsuoNouen + Coffee (P29)等で購入可



アジフライ★
キャラバンBOX

聖地松浦のスピリッツがぎゅっと詰まったPRイベントのシンボル。
●松浦市地域経済活性化課 ☎0956・72・1111



聖地松浦
“顔はめ”パネル

愉快で楽しい松浦アジフライの世界観にぜひ溶け込んでみて!
●松浦市地域経済活性化課 ☎0956・72・1111



MR松浦
アジフライ列車

珍景! 食品サンプルでつくったアジフライの吊革がズラリ!
●松浦鉄道※ ☎0956・25・3900



アジフライの聖地松浦
石工モニュメント

鷹島・阿翁地区産出の玄武岩「阿翁石」を使用。市内に5か所!
●設置場所はP21～の地図参照

美味しさを記憶に残す「映え」な松浦アジフライアイコンと、一度目にすると思裏から離れない「萌え」なヘリ人・永田さんのモチーフは、聖地のシンボル! Tシャツやステッカーなど松浦市でしか入手できないグッズは若い世代を中心にティープなファンを育んだ。「食べてよし」「買ってよし」「体験もイける」! 地域にしっかりと根づいたアジフライ印たち。しかしこんな愉快なアジフライブームを一番楽しんでいるのは、実は地元なのだ。小さな港町の大人たちがこそぞって取り組む本気の故郷再生。それは子どもたちにもしっかりと受け継がれていた。写真の松浦高校の生徒の一人など、「うちが週一、アジフライです笑。あの店はニラソースもバリ旨です」と、すっかり「小さな観光大使だ」。

4月になると「18歳」は大人の仲間入り。生まれ育ったまちに誇りを持って巣立つ彼らの、その日は近い。

※「アジフライ列車」の運行ルート・時間は前日に発表。また松浦駅を通過しない運行ルートがあるので利用時には電話で確認を。(問)松浦鉄道 担当 : 川村(☎0956・25・3900)